

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体力テストでは、握力・長座体前屈の項目はほとんどの学年が区・都の平均を上回った。
- ・昨年度の体力テストの結果は、高学年になるにつれ、体力合計点が都の平均より高かった。

(2) 課題

- ・男女共に、20mシャトルラン・反復横跳び・ソフトボール投げが課題である。
- ・低学年の俊敏性を要する動き、持久力が低い傾向にある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業のめあて、展開や技能のポイントなどを分かりやすく掲示することで、児童が楽しみながら活動に参加できる工夫をしていく。	友達に対して「上手だね。」「がんばれ。」「ぼく（わたし）が〇〇するから、△△さんは〇〇して。」などの肯定的な言葉掛けや話し合いを通して、集団で仲良く運動ができるようにする。	興味・関心を引き出し、意欲的に運動に取り組めるように教材・教具を整備する。 安全面の配慮をし、楽しく行えるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学年別で共有する学習カードや掲示物、タブレットの動画を活用し、技能のポイントをスモールステップでしっかりとおさえ、系統性を継続して身に付けさせる工夫をしていく。	自分で運動する場を選んだり、工夫したりできる場を設けたりするなど指導を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える場を意図的に設定する。	「できなかったことができそう。できた。」と実感し、楽しさを味わい、すすんで運動に取り組む児童を増やすために、場や教材・教具を工夫する。 場の安全に配慮する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動に対する知識を付け、自分の体をどのように動かせばよいか考えながら、技能を高められるようにしていく。 また、「心の健康」について考える機会を増やしていく。養護教諭、栄養士や専門家と連携を図りながら、生活習慣病や薬物乱用防止についての理解を図り、知識を活用する活動を実施していく。	活動の中にペアやグループ活動を意図的に取り入れ、児童同士の「関わり合い」を重視していく。 技能のポイントを押さえながら、友達のよいところについて称え合い、お互いに高め合えるように授業の展開を工夫していく。	各種目の運動の楽しさや喜びを味わい、自ら積極的に運動に取り組めるように、場や教材・教具を工夫する。 場の安全に配慮する。